

Satsumasendai City Public Relations

広報 薩摩川内

さつませんだい



2025(令和7)年
vol.502

サムライたちが歩んだ道
日本遺産をたどる

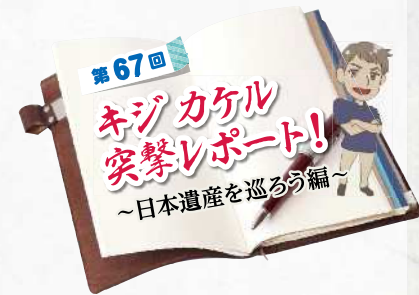


友だち
募集中



自治体広報紙配信
アプリ「マチイロ」
ダウンロード
はこちら





本市に残る文化財などが日本遺産に認定されていることを知っていますか。日本遺産とは、地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを文化庁が認定するものです。本市では、2019年（令和元年）に認定された、「薩摩の武士が生きた町」武家屋敷群「麓」を歩くの構成文化財に「入来麓」、「里麓」、「手打麓」などが含まれています。今回は、構成文化財となっている各麓の特徴や魅力を深堀りします。

麓とは？

江戸時代の薩摩藩では、鹿児島城の城下に至る武士を住まわせることができないため、県内各地の山城の周辺に「麓」と呼ばれる武士が住む町をつくり、今も多くの場所に残っています。麓は、石垣、生垣で屋敷割りを行った



入来麓

防御性の高い、川と山に囲まれた



▲Googleマップ
(入来町浦之名)

里麓

海に面し、海上交通の監視を行った



▲Googleマップ
(里町里)

手打麓

約700mにおよぶ手打湾に沿った



▲Googleマップ
(下甕町手打)



入来麓

川と山に囲まれた自然の地形をうまく利用した武家集落。2003年（平成15年）12月に国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されています。



武者返し

ここは入来麓の中で、最も高い石垣。敵が登れないようにカーブがかかった「武者返し」という形になっているんだって！

入来麓の石垣は、川の石を使用しています。上下に大きい玉石を置き、真ん中に小さい石をはさんでいます。1つの石を中心に、6〜7つの石で囲んでいるのが特徴です。生垣は、石垣を傷めないように根が垂直に伸びる茶の木を使用しています。



この積み方を、野石乱積みというよ！

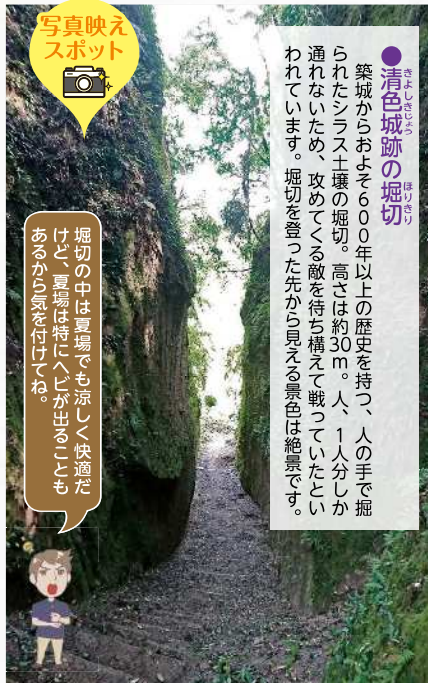
寝西郷



現在、入来小学校がある場所は、入来の殿様がいたといわれています。



築城からおよそ600年以上の歴史を持つ、人の手で掘られたシラス土垣の堀切。高さは約30m。人、1人分しか通れないため、攻めてくる敵を待ち構えて戦っていたといわれています。堀切を登った先から見える景色は絶景です。



写真映えスポット

堀切の中は夏場でも涼しく快適だけど、夏場は特にヘビが出ることもあるから気を付けてね。

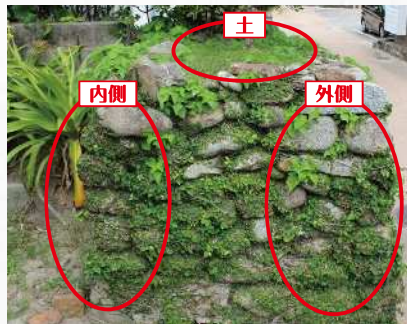
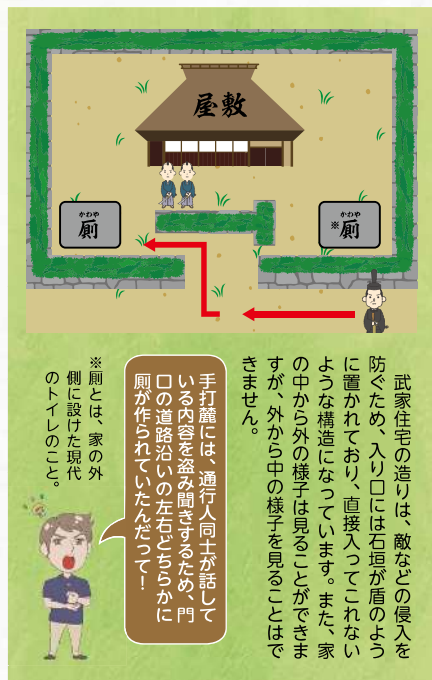




手打麓

道幅は比較的広く、乗馬の練習をしていたといわれているよ！

薩摩藩は、江戸時代を通して、浄土真宗（二向宗）を禁教としました。手打麓の石垣は、信仰していることを役人たちに気付かれないよう工夫を凝らして作られたといわれています。



山から採ってきた石を積み上げた石垣が特徴です。外側と内側から積み上げた土を詰めて生垣を植えている2層構造になっています。



●津口番所跡
異国船の取り締まりのために置かれていました。近くの観音山を見張り山とし、取り締まりは番所の中でも特に厳しかったといわれています。

武家住宅の造りは、敵などの侵入を防ぐため、入り口には石垣が盾のように置かれており、直接入ってこないような構造になっています。また、家の中から外の様子は見ることができません。

手打麓には、通行人同士が話している内容を盗み聞きするため、門口の道路沿いの左右どちらかに厠が作られていたんだって！

※厠とは、家の外側に設けた現代のトイレのこと。



里麓

近隣住民などが石垣の清掃を行い、景観を保持しているんだって！

里麓は海に面しており、海路の往来を監視するという役割を担っていました。海辺の丸い玉石を使った石垣が特徴的です。

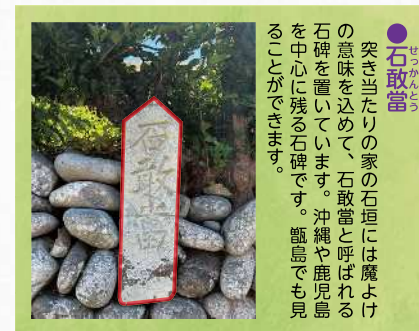


里麓の石垣は、主に台風や偏西風などから家を守るために作られました。全体的に丸石の石垣が特徴的ですが、強度を高めるため、端には角張った大きな石が見られます。生垣は、庭木に実用的な果物の木も多かったようですが、武道で使う木剣として利用できる、硬いイヌキなどが多く植えられています。



里麓武家屋敷通りまで道案内してくれるよ！

里港から徒歩5分。里みなと公園付近から石垣に沿って歩道に色が付けられています。



●石敢當
突き当たりの家の石垣には魔よけの意味を込めて、石敢當と呼ばれる石碑を置いてあります。沖縄や鹿児島を中心に残る石碑です。甌島でも見ることが出来ます。



写真映えスポット

亀城跡を登ると、里の海を見渡せる絶景が広がっているよ！

●亀城跡
現在の里小学校の裏にある亀城跡。山が亀の形に見えることから名付けられたといわれています。鎌倉時代、地頭の小川氏の居城とされていました。

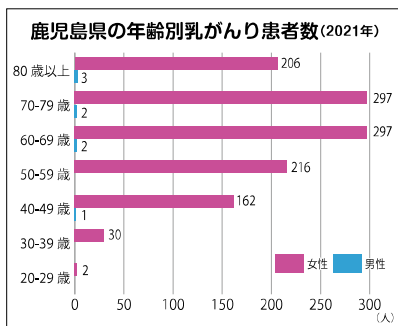
人生100年時代！健康増進講座 「プレスト・アウェアネス」を心掛けよう

vol. 4

プレスト・アウェアネスとは？
プレスト・アウェアネスとは乳房を意識する習慣を意味します。

現在、日本では女性がかかるがんの中で、乳がんが最も多くなっており、9人に1人は乳がんになるといわれています。

乳がんは乳腺の組織にできるがんで、日本の女性の場合、30代から増え始め、40～60代で多く発症しています。他のがんより比較的若い世代に多いのが特徴で、稀に男性も発症することがあります。



プレスト・アウェアネスとして、次の4つのポイントを心掛けましょう。

1 入浴時や着替えの時などに、自分の乳房を見たり触れたりして普段の状態を知りましょう。

2 乳房のしこりや皮膚のくぼみなど変化があった場合は注意しましょう。

3 定期的な乳がん検診を受診し、検診で「要精検」の結果であった場合は、必ず精密検査を受けましょう。

4 本市では、40歳になった方を対象に乳がん検診を行っています。受診される年度中に40歳になる方は、無料で受診できます。



自宅でチェック

- 4本の指をそろえて、指の腹と肋骨で乳房を挟むように触れ「の」の字を書くように指を動かします。その時に、しこりや硬いこぶがないか、乳房の一部が固くないか、脇の下から乳首までチェックします。
- 乳房や乳首をしぼるようにして、乳首から分泌物が出ないかを調べます。
- 腕を高く上げて、ひきつれ、くぼみ、乳輪の変化がないか、乳首のへこみ、湿疹がないかを確認します。
- 腕を腰に当てて、しこりやくぼみがないかも観察します。



問合先／市民健康課健康企画G
(すこやかふれあいプラザ)
☎(22)8811

早期発見・早期治療がカギ

乳がんは早期の段階では自覚症状がないことも多いですが、乳房の変化により自分で気付くことができ、早期発見・早期治療で約9割が治る病気です。小さな変化に気付けるよう、日頃からプレスト・アウェアネスを心掛け、早期発見・早期治療につなげることが重要です。

10月はピンクリボン月間です

本市では、川内保健センターにピンクリボンツリーを設置し、乳がん検診やプレスト・アウェアネスについての啓発活動を行っています。日頃、自分の体についてゆつくり考えることがない方も、この機会に、自分の体の健康に目を向けてみませんか。令和7年6月から、がん検診の申し込みや日程変更がパソコンやスマートフォンなどからできるようになりました。

市公式LINEの基本メニュー「検診・予約からも申し込みができますので、詳しくは市ホームページまたは川内保健センターにお問い合わせください。



▲市ホームページ

国勢調査が始まります

令和7年10月1日を基準日として、「国勢調査」が全国一斉に実施されます。

これは、私たちの生活に欠かせないさまざまな行政施策に役立てられる大切な調査です。9月下旬に、各世帯にインターネット回答IDと調査票(紙)を配布します。皆さんのご協力をお願いします。

回答期限

▼インターネット 9月20日～10月8日
▼調査票(紙) 10月1日～8日

国勢調査とは…

統計法という法律に基づいて、5年に1度実施される基幹統計調査で、さまざまな施策を検討するうえで、欠くことのできない基礎データとして利用されます。

最も重要な調査



回答の義務あり

統計法で回答することが義務付けられています。回答が確認できない場合、国勢調査員が調査票の受け取りにお伺いします。

全世帯が対象

日本に住んでいる全ての(外国人も含む)と世帯が対象です。

調査は全17問で簡単

出生の年月や職業など人に関する設問と、住居の種類や世帯員の数などの世帯に関する設問に回答します。



国勢調査員が各世帯を訪問して、調査書類をお届けし、ご不在の場合は郵便受けに投函します。

調査書類は調査員が世帯ごとに配布

身近な暮らしに活用

少子高齢化社会への対応やコンビニエンスストアの出店計画、災害時に必要な物資を備えることなどに役立てられます。

☑インターネット回答がおすすめ

パソコンやスマートフォンなどで簡単に回答できます。インターネット回答を補助する「まちづくり出前講座」もありますので、ご活用ください。詳しくは、市ホームページをご確認ください。

☑個人情報を守られます

国勢調査に従事する者には、統計法による守秘義務が課せられています。



▲市ホームページ

☑「かたり調査」にご注意を

国や地方公共団体の職員、統計調査員などが電話や電子メールで統計調査依頼をしたり、個人や世帯の情報を調査をしたりすることは**絶対にありません**。

※預金や収入に関する調査事項はありません。
不審な電話や訪問があった場合は、速やかに問合先までご連絡ください。

地域で育む部活動の新しい形

国は、少子化が進む中でも、生徒が多様なスポーツ・文化芸術活動に継続的に親しめる環境を整え、教育の質の向上のために、これまで教員が担ってきた休日の部活動指導を地域の指導者やクラブ・団体へと移行する取り組みを進めています。学校と地域が連携し、全ての生徒が安心して参加できる環境づくりが重視されています。

本市では、令和3年度から既に実証事業として、サッカーやテニスなどの地域部活動に取り組んでいます。

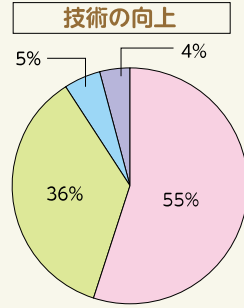
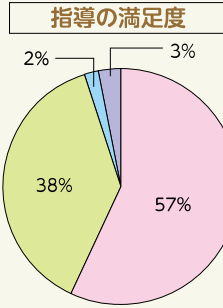


地域展開が必要な3つの理由

- ① 少子化による部活動の継続困難
・生徒数の減少により、チーム練習が成り立たないケースが増加
- ② 生徒の多様なニーズへの対応
・専門的な指導を受けたいという希望がある
- ③ 教員の負担増加
・部活動指導により長時間勤務が常態化し、働き方改革の妨げとなっている

本市の中学生にアンケート

実証事業で地域部活動をしている本市の中学生154人に、アンケート令和6年実施を行ったところ、95%が地域指導者の指導に満足していると回答しました。また、91%が地域指導者による指導で、技術が向上したと感じていることが分かりました。このことから、地域指導者の存在が生徒の成長や意欲の向上に大きく寄与していることがうかがえます。



■ 非常に満足
■ 満足
■ やや満足
■ 不満
■ 向上した
■ 向上しなかった
■ わからない
■ その他

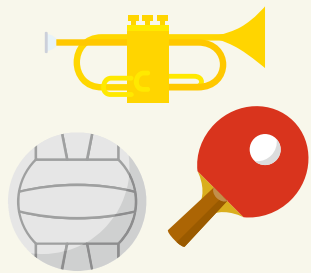
地域部活動の生徒の声

地域部活動になってよかったことは、専門的な指導をしてもらえることです。いつもの部活動と違う雰囲気や活動ができています。

地域指導者の声

学校との面談では、校長先生や教頭先生が温かく迎えてくださり、教育委員会の方や顧問の先生も分かりやすく説明してくださったおかげで、安心してスタートすることができました。

現在は、好きなサッカーを少しでも子どもたちに還元できるよう、楽しみながら指導にあたっています。また、保護者の方々も非常に協力的で、安心して活動が続けられています。



令和7年7月現在の地域指導者配置状況

学校名	部活動	学校名	部活動
川内北中学校	女子卓球 柔道 女子ソフトテニス	祁答院中学校	女子バレー 剣道
川内中央中学校	男子バレー 柔道 剣道	入来中学校	野球 サッカー 女子バレー 剣道 女子ソフトテニス
川内南中学校	サッカー 女子ソフトテニス	里中学校	卓球 男子バレー
水引中学校	吹奏楽	海星中学校	男子バレー
平成中学校	サッカー		
樋脇中学校	サッカー		

人材バンクへの登録を

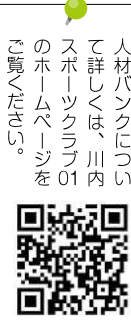
地域部活動への移行に伴い、現場では、指導者不足が課題となっています。令和7年度は、市内全中・義務教育学校11校の40運動部活動、1文化部活動で地域展開を実施する予定です。人材バンクに登録することで、「地域指導者」として学校の需要に応じ、指導者が配置されます。人材バンクの登録にご協力をお願いします。

部活動と地域部活動(これからの部活動)の違いは?

部活動	項目	地域部活動
教員(外部指導者)	指導者	地域指導者
在籍する学校	活動場所	市内の学校および公共施設
学校(学校が依頼)	運営主体	スポーツクラブ01
顧問の引率が必要 (外部指導者のみの大会遠征や大会参加などは不可)	大会や遠征などの引率	地域指導者のみで可
・生徒指導上の安心感 ・指導の一貫性	メリット	・専門性の高い指導を受けられる ・団体競技を維持できる ・自校にない部活動を選択できる
・希望する部活動の不在 ・顧問が競技未経験の可能性 ・部員減でチームを組めない ・教員の負担が大きい	デメリット	・指導体制の一貫性の維持 ・保護者の経済的負担 ・会場までの送迎

部活動は学校主体ですが、地域部活動は総合型地域スポーツクラブなどが主体となります。地域部活動では、子どもたちが専門的な指導が受けられ、活動を自由に選択できるようにする他、教員の負担が軽減されます。

り、将来的には平日の活動も地域主体へと移行していく見込みです。
※総合型地域スポーツクラブとは、地域住民が年齢や興味に応じて、誰でも参加できる多種多様なスポーツ活動を提供するクラブのことで、本市では、川内スポーツクラブ01です。



人材バンクについて詳しくは、川内スポーツクラブ01のホームページをご覧ください。

よくある質問に回答します

Q 人材バンクに登録するにはどうすればよいですか。
A 人材バンクに登録するには、本庁学校教育課または川内スポーツクラブ01で申請書を受け取り、必要事項を記入して提出してください。

Q 派遣までの流れを教えてください。
A ①学校からの派遣要請
②学校と登録者とのマッチング
③派遣開始

Q 報酬はありますか。
A 1時間1600円で、年間216時間の指導が可能です。

問合せ先
▼部活動に関すること
本庁学校教育課指導G
(内線53322)
▼人材バンクの登録に関すること
川内スポーツクラブ01
☎(23)55001

こころの健康を考える

10月10日は世界メンタルヘルスデー

世界メンタルヘルスデーは、世界保健連盟(WFHM)が1992年にメンタルヘルス問題に関する世間の意識を高め、偏見をなくし正しい知識を普及することを目的に定めまし。近年では、世界保健機構(WHO)でもこの取り組みに賛同し、世界各地でさまざまなイベントやキャンペーンが行われています。

地域で暮らす、働く

本市では「自立して暮らしたい」、「仕事をしたい」、「引きこもっているので、治療が必要なのか診断してほしい」、「収入やお金の管理が心配」など、暮らしや仕事、医療、お金の面で心配事をサポートする体制を整えています。

下表こころのサポート相談窓口までお気軽にご相談ください。

【主要な相談窓口】

行政	市	相談窓口	電話番号	対応時間
		本庁障害福祉課	内線2173	月～金 8:30～17:15 (祝日・年末年始を除く)
県		川薩保健所	(23)3166	月～金 8:30～17:30
		精神保健福祉センター	099(218)4755	
総合相談	障害者支援センター	可愛会(宮内町)	(22)0112	月～金 8:30～17:30
		サニーサイド(中郷町)	(24)0331	月～金 8:30～17:00
		緑joy(水戸町)	(26)2463	
		つくし園(永利町)	(24)2385	



▲こころの病を抱える方の地域での生活をサポートします～こころのサポート窓口一覧～

メンタルヘルスデーにちなんで 本市における取り組み！



メンタルヘルス(こころの健康)分野で活動する「TOMY's ACTION CLUB」による映画上映会



▲令和6年度広報薩摩川内10月通常版

障害福祉サービス事業者による物販マルシェ



今年も開催されます！

映画上映会 2025 & マルシェを開催！

日時：10月5日(日)
9:30～13:30

場所：総合福祉会館(永利町)
問合先：TOMY's ACTION CLUB
☎ 090(3010)3043

人のとなりに

佐藤 光浩さん

「人のとなりに」とは…

文字通り、その人の隣にいて、思いに寄り添うことや人柄を表す言葉「人と寄り」をイメージしたコーナーで、人物や活動の紹介だけでなく、その人の思いにスポットを当てることを目的としています。



育英地区の前畑、高畑、野間島自治会の中から有志が集まった33人で結成する「中郷下青壮年会」。昨年度、発足40周年を迎え、独居老人宅訪問など地域の見守り活動を行う。
今回はその会長の地域への思いに寄り添う。

地域の安全のために

約40年前、転勤を機に本市に引っ越し、25年前から育英地区で暮らす佐藤さん。職場の先輩の紹介で「中郷下青壮年会」に入会。現在は40～70代のメンバーで活動し、4月から会長に就いた佐藤さんを中心に地域のために活動を継続している。その1つとして独居老人宅訪問がある。年に1回独居老人宅を訪問し、大雨などの災害発生時に頼ってほしいと、あいさつを兼ねて広報活動を行う。

独居老人宅訪問活動のきっかけは、平成18年に発生した鹿児島県北部豪雨。自治会長からの依頼で要支援者を避難所へ車で搬送したことをきっかけに翌年から本格的に活動を開始。訪問時や活動の際は青壮年会の会員を示す黄緑色の帽子を被り、地域の方にお互いの顔と名前を覚えてもらえるようにしている。



笑顔を大切に

佐藤さんが中郷下青壮年会に入ってから約20年が経過。独居老人宅訪問時に心掛けていることを伺うと、「笑顔を大切にしている。約10人で訪問する長め、驚かれないために自治会長に協力をお願いしながら一緒にあいつに伺う。信用してもらうことが大切なので、笑顔で対応するように心掛けています。誰がどこに住んでいるか全て把握しているわけではないので、自治会が作成している独居老人宅の地図を頼りにいざというときに対応できるように準備をしている。私たちの力だけではできない活動なので、自治会や地区コミュニティ協議会との協力が不可欠だ」と言う。

中郷下青壮年会は1年を通して公園や道路の清掃、育英地区の文化祭準備や夏祭りのステージ設置ボランティアなどさまざまな活動を行う。このような活動を通して、地域の友好や親睦を深め、盛り上げていきたい」と話し、住み慣れた地域(奉仕活動、お互いに支え合う(労働力の提供)、安心して暮らせる(地域見守り)、健やかに暮らせる(会員親睦)まちづくりに取り組んでいる。



41年目のこれから

昭和58年度に発足し、令和6年度で40周年を迎えた中郷下青壮年会「地域コミュニティは私たちの生活を豊かにしてくれるかがえのない存在だと考えている。互いの助け合いや文化の継承、地域活性化、安心できる居場所の提供という多岐にわたる側面から地域コミュニティの重要性はますます高まっている」と話す。

この活動を次世代につないでいくためには、若い世代の会員を募りながら、今後も活動を継続していきたいという。



